「さんすうあそび」題材解説　№10「買い物ごっこ」　2013.08.02 矢沢国光

【遊び方】

全体を「かぞく」（３家族に分ける）と「おみせやさん」（おかしやさん、やおやさんなど３－４のお店）の二つに分ける。途中で交代する。

1）７－９人家族の中のだれとだれが何が欲しいか、注文をまとめる。なにを［品物カード］、いくつ［キューブ］。

＊家族は、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、子ども。牛乳パックを切り取って、絵を貼り、それぞれの「人」（容器付き）を作る。

＊家族の食事を準備する、などの物語を作りながら注文をまとめる。はじめは保育士がリードして、わかってきたら子どもに任せてもよいでしょう。

【写真上は家族、下はお店】

＊タイルで注文する人を特定し、タイルを「数え箱」（写真では卵パック）に入れて、おなじ「数のカード」（たとえば６のカード）を選ぶ。数のカードと品物カードと買い物かごを持って、買い物に行く。キューブのお金を使ってもよい。

＊買い物は、一度に１種類のモノとする。

＊お店に行って「品切れ」だったらお家にかえって、もう一度何を買うか相談します。

2）お店へ行き、数のカードと品物カードをお店の人に渡す。

3）お店の人が、品物を数え箱に詰める。

4）品物を受け取って家(テーブル)に帰り、注文した人に配る。

5）過不足ないか確認し、よければ「いただきます」または「ではこれからお料理をはじめましょう」。足りなければ(余れば)、もう一度お店に行く。

【準備するもの】

（１）家族の側　３テーブルとして、各テーブルにつき

・「いえ」（段ボールで作る）　・人（牛乳パックまたは紙コップで作る）　７－９個（祖父母、父母、子ども）

・品物カード（箱に入れて）　・タイル　２０個（箱に入れて）

・数え箱（５×２列）　１個　・買い物かご　１個

【写真上は自動販売機】

（２）お店　３軒　各おみせにつき

・お店の看板・メニュー（テープルの前に貼る）　１枚

・品物（消しゴム）（箱に入れて）　・数え箱　１個

【ねらい】

①子どもたちが物語の中に入って楽しむ[子どもが自分で物語り作りに参加する]。

②９個までの個数（人数、品物の個数）を使って買い物・分配をする。タイルと数のカードで注文数、品物の数を表し、数字は保育士が言い添えるだけで、教えない。

③グループの中で話し合って仕事を分担したり、協力したりする。

④家庭の日常生活で体験する「家族同士のふれあい」「食事の準備」「家族や友だちといっしょのおやつや食事」「買い物」をかいものごっこの中で再現し、子どもの内部世界を豊かにする。

「さんすうあそび」題材解説　№.11　**個数、モノとタイルとかず**　2014.02．11 矢沢国光

【ねらい１】人やモノをかぞえる

・「かずがわかる」とは、「いち、に、さん…」と「数が言える」ことではありません。まずは「人やモノの個数がかぞえられる」ということです。「集合数（モノの個数）としての数」の認識が育つということです。[一番目の人、二番目の人、…の「かず」は「順序数」といいます。順序数は、集合数を基にして導入します。集合数から順序数へ、というのが「かずがわかる」順序です。]

・「個数」はつぎのようにして、身につきます。

①モノとタイルを１対１対応させる、②そのタイルを集めて、タイルのかたまり□□□を作る、③タイルのかたまり□□□に数字（３）と数称（さん）を対応させる。

・日常生活には、人や物の「個数」を数える場面がたくさんあります。たとえば「子どものすわる椅子を用意する、いくつ用意したらよいか」、「子どもの給食を用意する、何人分用意するか」、「子どもをプールに入る子と入らない子のグループに分ける　……」。このように「数える」には必ず「何のために数えるか」という「目的」があります。目的によって、数え方もちがってきます。子どもの数を数える場合も、目的によって、男子と女子を区別する必要があったり、体調のよい子とよくない子に分けて数えたりします。

しかし、ここでは、「目的」には目をつぶって、「個数を数える」とはどういうことか、体験します。

今後、買い物ごっこ、お菓子工場などで、「目的を持って数える」活動もします。

【ねらい２】「５のかたまり」を作りながらかぞえる

・一目見て個数がわかるのは、３個までです。４個は「２個と２個」または「３個と１個」と認知します。５個は「３個と２個」と認知するでしょう。**５個より多くの個数は、「５のかたまり」を作ってかぞえる**と便利です。「６個は５個と１個」「７個は５個と２個」「８個は５個と３個」「９個は５個と４個」。

・１０個以上の個数は、小学校に入ってから学習しますが、「１０のかたまり」を作ってかぞえます。まず「５のかたまり」を作り、「５のかたまりが２つで 10 のかたまりになる」（５と５でじゅう）という数え方を「5－ 2 進法」といいます。「さんすうあそび」では、個数をかぞえるとき、いつも「５－２進法」を意識して活動します。

・５のかたまりを作るために、タイルの入れ物も「5 個の入れ物」を用意します。また、タイルやモノを「はこ」に入れるときも、**「５のかたまり」が見えるような「数え箱」**（写真）**を使います。**

【進め方】

（1）安野光雅の絵本『はじめてであうすうがくの本　２』の読み聞かせる

絵本では、

①まず何人かの子どもの絵を描く⇒少しかんたんに描く⇒もっとかんたんに描く⇒……⇒○で描く。

②○をまるめて■（タイル）にする機械

こうして、モノとタイル■の１対１対応を見せます。次に

③ホワイトボードに貼った絵の中の鳥などを探して、タイル■をはり付ける（鳥などとタイル■の１対１